



**教育環境整備に感謝を**



平成6年から18年間にわたり、下川教職員住宅の敷地内の除雪や当別中学校周辺の草刈りボランティアを続けてきた宮本准司氏（下川町在住）と、平成18年度から学校4校、社会教育施設3箇所にてAED（自動体外式除細動器）の寄贈をいただいた札幌北法人会当別支部（宮永雅己支部長）に対して、山内教育長から感謝状が贈呈されました。

これらは、町民の生命を守り、安全・安心な環境づくりにご尽力していただいたことに感謝し贈られたものです。

(3月26日)

**新酒！その名は雪泉 ゆきふくろう**



当別産のお米で酒造りに取り組む「当別酒米生産研究会（大塚利明会長）」が今年の新酒「雪泉（ゆきふくろう）」を発表しました。

同研究会は、米どころ当別の名を広めようと、11年前から本格的に酒米の生産に取り組み、一昨年前より彗星という銘柄を栽培、栗山町の小林酒造でまろやかな味に仕立てられました。昨年は東日本大震災の影響で、2年ぶりの発表会でしたが、会場のふとみ銘泉には100名が参加、「後味がいい。飲むほどに良さが伝わる。」とほろ酔い顔で、飲み干していました。

(3月27日)

**91冊の図書を寄贈**



町内で庭や外構工事を手がけるトーホテック株式会社より、児童図書が寄贈されました。

図書は「オズの魔法使いシリーズ」、「としょかんねこデューイ」など絵本をはじめ人気のある91冊で、巡回図書として各小学校を巡った後、西当別コミュニティーセンター図書室で閲覧、貸し出しができます。

(3月26日)



震災で亡くなった消防職員へ



3月24日開催の民族舞踊「こぶし座」当別公演の実行委員会(鈴木岩夫委員長)から「東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金」に寄付があり、川辺当別消防署署長が受け取りました。

公演では東北に伝わる歌や踊りが披露され、農村文化を懐かしむ方々から拍手喝采を浴びました。会場には昨年の大震災のパネル展もあり、実行委員の松田千葉流(当別高2)さんの呼びかけで、入場者から26,866円が寄付され、これを震災で亡くなった消防団員、職員の遺児へ育英資金として送ったものです。(4月5日)

春のセーフティコール



栄町の国道275号沿いで、町内の各事業所、地域住民や保育園児を含む121名が春の交通安全運動の一環としてセーフティコールを行い、交通安全のノボりで事故防止をアピールしました。

今年に入って町内では2件の事故があり、2名の方が痛ましい死亡事故の犠牲になっています。

これから行楽シーズンに向けて、車のスピードも上がりがちです。ドライバーの皆さんは、ハンドルを握ったら「一時停止の徹底・左右確認の励行・車間距離の保持」に心がけましょう。

(4月6日)



広 告

広 告

広 告